



須戸源氏



特別
千 12
3643
16(20)



須江氏

八重丸垣路乃様ノのミまニくニ九重ノくニ

あはれは日向國宮崎乃志也

くまの藤原の奥則とハ神子也極也

神鄙乃信右あつた依と未伊勢太神

宮へまゝの福よ此所思ひ立伊勢お

文と志とく作ヤ振衣タをタ白タ立タぬタ

梅若誠太郎氏
昭和四年正月廿五日
梅若重彦氏
寄贈



...桐壺のゆりの煙きぬ思ひの海
...いさくまればさげらある地
...宿み明くく小萩をその
...しひささざさくまはりし専心
...勅にやうり十二あくら冠
高麗國の相人のづきりしあより
...帯末れ巻し中

...紫の吹のまこと正二位に叙され
...夏は去のあけ行はるるて八月
...はぼるをあらめ契りゆへ年口五と
...律の風浪のうら海士今の歌き
...はなはなほまほまほの雲情にけりあ
...つふかた今をのぼるは福よ天下に奇

頃

おれは老有るは都より召され敷
乃の宿を寝て別をなうも所
はとけくふ田代しめれ春は政
藤のうたは天上天守りたり
ひと物とくさる君とハドあり
氏の田代りくくくくくくく
番くさくくくくくくくくく

乃家終の昔をりくくくくく
くくくくくくくくくくくく
乃影の光は地所住家昔は
今もこの山の刻は夕紅は月宮
くもにあまきくくくく海は敷向有る
か極より暮るをき物語は乃

吉
母の名の支

萱候孤雲のひききき青天もくもくや
須のうねれあゝ海の波はきこくも
吉キ日ニニニニニニニニニニニニニニニ
老玉もくもく雨とあやもくもくもくもくもく
にでしよりきりきりしつ影の中にあ
たきき喜男あやあやあやあやあやあや
おきり海風のきりきりしつ影の中にあ
可きき浪のきりきりしつ影の中にあ

吉
梵釋

吉
人間の

吉
山賊めきぬと

生と助きと都卒天より一衣衣にま
あゝ有邪の清もあやあやあやあや
のうもあやあやあやあやあやあやあや
引寸雲かほ雲のうもあやあやあやあや
吉
志もあやあやあやあやあやあやあやあや
えもあやあやあやあやあやあやあやあや
あやあやあやあやあやあやあやあやあや
あやあやあやあやあやあやあやあやあや

